

幾何学 演習の解説 (1/14)

1

鎖複体の短完全列

$$0 \longrightarrow \operatorname{Hom}(S(X), G_1) \xrightarrow{i_*} \operatorname{Hom}(S(X), G_2) \xrightarrow{j_*} \operatorname{Hom}(S(X), G_3) \longrightarrow 0$$

が存在することをいえばよいわけです。写像 i_* , j_* はそれぞれ次のように定義します：

$$\begin{aligned} i_*(f) &= i \circ f, \quad \forall f \in \operatorname{Hom}(S(X), G_1), \\ j_*(g) &= j \circ g, \quad \forall g \in \operatorname{Hom}(S(X), G_2). \end{aligned}$$

これらが鎖準同型になることは次のようにしてわかります。特異単体 $\sigma : \Delta \rightarrow X$ に対し

$$\begin{aligned} (\delta(i_*f))(\sigma) &= i_*f(\partial\sigma) = (i \circ f)(\partial\sigma) = i(f(\partial\sigma)) \\ &= i(\delta f(\sigma)) = i_*(\delta f)(\sigma) \end{aligned}$$

よって $\delta i_* = i_* \delta$ です。 j_* についても全く同様です。

以下、上記の列が完全になることを確かめます。

(i) i_* の単射性。 $i_*(f) = 0$ と仮定すると、任意の $x \in S(X)$ について $i(f(x)) = 0 \in G_2$ です。もとのアーベル群の列の完全性から i は単射だったので、任意の $x \in S(X)$ について $f(x) = 0$ ということになります。これは $f = 0$ を意味します。

(ii) $\ker j_* = \operatorname{im} i_*$ であること。まず $j \circ i = 0$ でしたから

$$j_* i_*(f) = j \circ i \circ f = 0$$

つまり $\operatorname{im} i_* \subset \ker j_*$ です。逆に $g \in \ker j_*$ とすると $j_*(g) = 0$ 、つまり任意の $x \in S(X)$ について $j(g(x)) = 0 \in G_3$ です。 $\ker j = \operatorname{im} i$ で i は単射でしたから、 $g(x) = i(y)$ となる $y \in G_1$ がただひとつ存在します。そこで、 $f \in \operatorname{Hom}(S(X), G_1)$ を

$$f(x) = y$$

で定義します．これが準同型 $f : S(X) \rightarrow G_1$ を定めることはすぐにわかり，作り方から

$$i_*(f)(x) = i(f(x)) = g(x)$$

つまり $g = i_*(f)$ ，従って $g \in \text{im } i_*$ となり， $\ker j_* \subset \text{im } i_*$ がいえました．

(iii) j_* の全射性．任意に $h \in \text{Hom}(S(X), G_3)$ を取ります．任意の $x \in S(X)$ に対して $h(x) \in G_3$ ですが， j は全射でしたから

$$j(y) = h(x)$$

となる $y \in G_2$ を取ることができます．そこで， $g \in \text{Hom}(S(X), G_2)$ を

$$g(x) = y$$

で定義します．この g は準同型であることがすぐにわかり，作り方から $j_*(g) = h$ です．よって j_* は全射です． h に対して g はただ一つには定まらないことに注意しましょう．

2

(1) m と n の最大公約数を $(m, n) = d$ と書きます．次の \mathbb{Z} 準同型を考えます：

$$f : A \otimes B \longrightarrow \mathbb{Z}_d, \quad f([x] \otimes [y]) := [xy].$$

まず，この写像は well-defined です．実際

$$[(x + km)(y + ln)] = [xy] + [xln + ykm + klmn]$$

ですが，この第 2 項は d で割り切れるので \mathbb{Z}_d において 0 です．

次に単射性を見ます．まず， $A \otimes B$ の任意の元は $\sum([x] \otimes [y])$ の形で書かれますが，これを

$$\begin{aligned} \sum([x] \otimes [y]) &= \sum([x] \otimes y \cdot [1]) \\ &= \sum(y \cdot [x] \otimes [1]) \\ &= \sum([xy] \otimes [1]) = \left(\sum [xy] \right) \otimes [1] \end{aligned}$$

の形に書くことで，最初から単項式 $[x] \otimes [y]$ の形のものについて考えれば十分です．ここで $y \cdot [x]$ などは， \mathbb{Z} 加群 \mathbb{Z}_m に対する \mathbb{Z} の作用を表わします．

$[xy] = 0 \in \mathbb{Z}_d$ とすると，ある $k \in \mathbb{Z}$ について $xy = kd$ です．ここで， $am + bn = d$ を満たす $a, b \in \mathbb{Z}$ が存在したことを思い出すと， $akm + bkn =$

$kd = xy$ です . よって , $A \otimes B$ において

$$\begin{aligned} [x] \otimes [y] &= [x] \otimes y \cdot [1] = y \cdot [x] \otimes [1] = [xy] \otimes [1] \\ &= [akm + bkn] \otimes [1] = [bkn] \otimes [1] \\ &= bkn \cdot [1] \otimes [1] = [1] \otimes bkn \cdot [1] = [1] \otimes [bkn] \\ &= 0. \end{aligned}$$

全射性は容易で , 任意の $[z] \in \mathbb{Z}_d$ に対し $f([z] \otimes [1]) = [z]$ です . 以上により

$$A \otimes B \cong \mathbb{Z}_d.$$

次の問題のために , \mathbb{Z} も含めて Tor および Ext を計算しておきましょう .
結論は以下のとおりです :

補題 1

- i) $\text{Tor}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) = 0, \text{Tor}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) = 0.$
- ii) $\text{Ext}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) = 0, \text{Ext}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) = 0.$
- iii) $\text{Tor}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) = 0, \text{Tor}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}_n) = \mathbb{Z}_d.$
- iv) $\text{Ext}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) = \mathbb{Z}_m, \text{Ext}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}_n) = \mathbb{Z}_d.$

証明 i) \mathbb{Z} の自由分解としては

$$0 \longrightarrow 0 \xrightarrow{0} \mathbb{Z} \xrightarrow{id} \mathbb{Z} \longrightarrow 0 \quad (1)$$

を取れます . (1) に \mathbb{Z} をテンソルすると , $\mathbb{Z} \otimes \mathbb{Z} \cong \mathbb{Z}$ から

$$0 \xrightarrow{0} \mathbb{Z} \xrightarrow{id} \mathbb{Z} \longrightarrow 0$$

となり , $\text{Tor}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) = \ker 0 = 0$ です .

また (1) に \mathbb{Z}_n をテンソルすると

$$0 \xrightarrow{0} \mathbb{Z}_n \xrightarrow{id} \mathbb{Z}_n \longrightarrow 0$$

となるので , やはり $\text{Tor}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) = \ker 0 = 0$ です .

ii) まず $\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) \cong \mathbb{Z}$ に注意します . 実際 , この同型は

$$(f : f(1) = k) \mapsto k$$

で与えられます . よって , (1) の $\text{Hom}(\ , \mathbb{Z})$ を取ると

$$0 \longrightarrow 0 \longrightarrow \mathbb{Z} \xrightarrow{id} \mathbb{Z}$$

です . このことから $\text{Ext}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) = \text{coker } id = \mathbb{Z}/\text{im } id = 0$ です .

次に, $\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) \cong \mathbb{Z}_n$ に注意します. この同型も上と同様です. よって (1) の $\text{Hom}(\quad, \mathbb{Z}_n)$ を取ると

$$0 \longrightarrow 0 \longrightarrow \mathbb{Z}_n \xrightarrow{id} \mathbb{Z}_n$$

となり, $\text{Ext}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) = \text{coker } id = \mathbb{Z}_n / \text{im } id = 0$ です.

iii) $A = \mathbb{Z}_m$ の自由分解として

$$0 \longrightarrow \mathbb{Z} \xrightarrow{i} \mathbb{Z} \xrightarrow{j} \mathbb{Z}_m \longrightarrow 0 \quad (2)$$

を取ります. i は m 倍写像, j は商写像です. これに \mathbb{Z} をテンソルすると

$$\mathbb{Z} \xrightarrow{i} \mathbb{Z} \xrightarrow{j} \mathbb{Z}_m \longrightarrow 0$$

です. やはり i は m 倍写像, j は商写像になります. よって

$$\text{Tor}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) = \ker i = 0.$$

また, (2) に $B = \mathbb{Z}_n$ をテンソルすると

$$\mathbb{Z} \otimes \mathbb{Z}_n \xrightarrow{i \otimes 1} \mathbb{Z} \otimes \mathbb{Z}_n \xrightarrow{j \otimes 1} \mathbb{Z}_m \otimes \mathbb{Z}_n \longrightarrow 0$$

を得ます. $\mathbb{Z}_m \otimes \mathbb{Z}_n \cong \mathbb{Z}_d$ でしたから

$$\mathbb{Z}_n \xrightarrow{i'} \mathbb{Z}_n \xrightarrow{j'} \mathbb{Z}_d \longrightarrow 0$$

の形になります. $i'([k]) = [mk]$ です. $\text{Tor}(A, B) = \ker i'$ を求めましょう. $i'([k]) = [0] \in \mathbb{Z}_n$ とすると, ある整数 l に対して $[mk] = [ln]$ です. $d = (m, n)$ で割ると $m'k = ln'$ (m', n' は互いに素) となります. このような (k, l) は

$$(k, l) = (pn', pm') \quad p = 0, \pm 1, \pm 2, \dots$$

に限られますから, 特に

$$\ker i' = \{[0], [n'], [2n'], \dots, [(d-1)n']\} \subset \mathbb{Z}_n$$

です ($dn' = n$). これは \mathbb{Z}_n の部分群を成し, \mathbb{Z}_d と同型ですから

$$\text{Tor}(A, B) \cong \mathbb{Z}_d.$$

iv) (2) の $\text{Hom}(\quad, \mathbb{Z})$ を取ると

$$0 \longrightarrow \text{Hom}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) \xrightarrow{j^*} \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) \xrightarrow{i^*} \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z})$$

です. ここで $\text{Hom}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) = 0$ に注意します. 何故なら, $f: \mathbb{Z}_m \rightarrow \mathbb{Z}$, $f([1]) = k$ とすると, $0 = f([0]) = f([m]) = mf([1]) = mk$ より $k = 0$, 従って $f = 0$ だからです. よって上の完全列は

$$0 \longrightarrow 0 \xrightarrow{j^*} \mathbb{Z} \xrightarrow{i^*} \mathbb{Z}$$

となります．ここでも i^* は m 倍写像になります．実際， $i^* : \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) \rightarrow \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z})$ は

$$i^*(f) = f \circ i : 1 \mapsto f(i(1)) = f(m) = mf(1)$$

だからです．よって

$$\text{Ext}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}) = \mathbb{Z}/\text{im } i^* \cong \mathbb{Z}_m$$

です．

最後に，(2) から

$$0 \longrightarrow \text{Hom}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}_n) \xrightarrow{j^*} \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) \xrightarrow{i^*} \text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n)$$

を考えます．ii) で見たように $\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) \cong \mathbb{Z}_n$ でしたから， i^* は

$$i^* : \mathbb{Z}_n \longrightarrow \mathbb{Z}_n, \quad i^*([1]) = [m]$$

と見なせます．よって i^* の像は

$$\text{im } i^* = \{[km], k = 0, \pm 1, \pm 2, \dots\}.$$

最初に $[km] = [0] \in \mathbb{Z}_n$ となるのは $km = (m \text{ と } n \text{ の最小公倍数})$ となるときで，そのとき $k = n'$ です ($dn' = n$)．よって $\text{im } i^* \cong \mathbb{Z}_{n'}$ となり

$$\text{Ext}(\mathbb{Z}_m, \mathbb{Z}_n) \cong \mathbb{Z}_m / \text{im } i^* \cong \mathbb{Z}_d$$

です．

上の証明の中で，次のことも示しているので，まとめておきます；

補題 2

i) $\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) \cong \mathbb{Z}$,

ii) $\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}_n) \cong \mathbb{Z}_n$,

iii) $\text{Hom}(\mathbb{Z}_n, \mathbb{Z}) \cong 0$.

(2) 普遍係数定理において，特に $G = \mathbb{Z}$ とすれば

$$H^n(X) \cong \text{Ext}(H_{n-1}(X), \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(H_n(X), \mathbb{Z})$$

を得ます．但し，標準的な同型ではないことに注意しましょう．ホモロジー群を自由部分 (\mathbb{Z} の直和) とねじれ部分 (\mathbb{Z}_n の形のものの直和) に分けて

$$\begin{aligned} H_{n-1}(X) &\cong F_{n-1} \oplus T_{n-1}, \\ H_n(X) &\cong F_n \oplus T_n \end{aligned}$$

と書きます． F が自由部分， T がねじれ部分です．補題 1 を用いて普遍係数定理の式を書き直すと

$$\begin{aligned} H^n(X) &\cong \text{Ext}(H_{n-1}(X), \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(H_n(X), \mathbb{Z}) \\ &\cong \text{Ext}(F_{n-1} \oplus T_{n-1}, \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(F_n \oplus T_n, \mathbb{Z}) \end{aligned} \quad (3)$$

です．ここで Ext および Hom が直和に関して「分配的に」ふるまうことを用います．即ち

補題 3

i) $\text{Ext}(F \oplus T, \mathbb{Z}) \cong \text{Ext}(F, \mathbb{Z}) \oplus \text{Ext}(T, \mathbb{Z})$,

ii) $\text{Hom}(F \oplus T, \mathbb{Z}) \cong \text{Hom}(F, \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(T, \mathbb{Z})$.

証明 Ext に関しては， F および T の自由分解

$$\begin{aligned} 0 &\longrightarrow A \xrightarrow{i} B \xrightarrow{j} F \longrightarrow 0, \\ 0 &\longrightarrow A' \xrightarrow{i'} B' \xrightarrow{j'} T \longrightarrow 0 \end{aligned}$$

の「直和」

$$0 \longrightarrow A \oplus A' \xrightarrow{i \oplus i'} B \oplus B' \xrightarrow{j \oplus j'} F \oplus T \longrightarrow 0$$

が $F \oplus T$ の自由分解ですから，これに \mathbb{Z} をテンソルしたものを考えておいて

$$\begin{aligned} \text{Ext}(F \oplus T, \mathbb{Z}) &= \ker(i \oplus i') \otimes id \\ &\cong \ker(i \otimes id) \oplus \ker(i' \otimes id) \\ &\cong \text{Ext}(F, \mathbb{Z}) \oplus \text{Ext}(T, \mathbb{Z}). \end{aligned}$$

Hom に関しては明らかでしょう．

補題 1, 2, 3 を (3) に対して用いると

$$\begin{aligned} H^n(X) &= (\text{Ext}(F_{n-1}, \mathbb{Z}) \oplus \text{Ext}(T_{n-1}, \mathbb{Z})) \oplus (\text{Hom}(F_n, \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(T_n, \mathbb{Z})) \\ &= \text{Ext}(T_{n-1}, \mathbb{Z}) \oplus \text{Hom}(F_n, \mathbb{Z}) \\ &= (H_{n-1} \text{ のねじれ部分}) \oplus (H_n \text{ の自由部分}) \end{aligned}$$

となっています．最後の等式は，補題 1 iv) と補題 3 i) から $\text{Ext}(T_{n-1}, \mathbb{Z}) \cong T_{n-1}$ ，また補題 2 i) と補題 3 ii) から $\text{Hom}(F_n, \mathbb{Z}) \cong F_n$ となることにより
ます．

(3) $\mathbb{R}P^n$ の \mathbb{Z} 係数のホモロジー群は

$$H_k(\mathbb{R}P^n; \mathbb{Z}) \cong \begin{cases} \mathbb{Z} & k = 0 \text{ または } k = n \text{ が奇数,} \\ \mathbb{Z}_2 & 1 \leq k \leq n-1 \text{ かつ } k \text{ が奇数,} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

でした．これと (2) を用いると

$$H^k(\mathbb{R}P^n; \mathbb{Z}) \cong \begin{cases} \mathbb{Z} & k=0 \text{ または } k=n \text{ が奇数,} \\ \mathbb{Z}_2 & 1 \leq k \leq n \text{ かつ } k \text{ が偶数,} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

です．

3

(1) Δ^n は標準的な n 単体を表すものとします．まず, $\sigma \in S_n(X \times Y)$ は写像 $\sigma: \Delta^n \rightarrow X \times Y$ ですから,

$$\sigma = (\sigma_X, \sigma_Y): \Delta^n \longrightarrow X \times Y, \quad \sigma_X \in S_n(X), \quad \sigma_Y \in S_n(Y)$$

と成分ごとに書けることに注意しておきます．

以下, いくつかの段階に分けて証明しましょう．

Step 1

鎖準同型 $\varphi: S(X \times Y) \rightarrow S(X) \otimes S(Y)$ を, 次の図式を可換にするように構成します．まず鎖写像であることから

$$\begin{array}{ccc} S_n(X \times Y) & \xrightarrow{\varphi_n} & (S(X) \otimes S(Y))_n \\ \partial \downarrow & & \downarrow \partial \\ S_{n-1}(X \times Y) & \xrightarrow{\varphi_{n-1}} & (S(X) \otimes S(Y))_{n-1}. \end{array}$$

を満たす必要があります．ここで $(S(X) \otimes S(Y))_n = \sum_{p+q=n} S_p(X) \otimes S_q(Y)$ です．

次に, 連続写像 $f: X \rightarrow X', g: Y \rightarrow Y'$ が鎖群に導く写像 $f_*: S(X) \rightarrow S(X'), g_*: S(Y) \rightarrow S(Y')$ についての自然性

$$\begin{array}{ccc} S_n(X \times Y) & \xrightarrow{\varphi_n} & (S(X) \otimes S(Y))_n \\ (f \times g)_* \downarrow & & \downarrow f_* \otimes g_* \\ S_n(X' \times Y') & \xrightarrow{\varphi_n} & (S(X') \otimes S(Y'))_n. \end{array}$$

も満たすようにします．式で書けば

$$(*)_n \quad \partial \varphi_n = \varphi_{n-1} \partial, \quad (f_* \otimes g_*) \varphi_n = \varphi_n (f \times g)_*$$

です．以下, このような φ_n を作っていきます．

次数ごとに帰納的に考えます．まず $\varphi_0: S_0(X \times Y) \rightarrow (S(X) \otimes S(Y))_0 = S_0(X) \otimes S_0(Y)$ は

$$\varphi_0(\sigma_X, \sigma_Y) := \sigma_X \otimes \sigma_Y$$

で定義します． $S_{-1} = \mathbb{Z}$ と考え， $\partial_{-1} = 0$ とすれば，条件 $(*)_0$ は満たされます．

次に $r \leq n-1$ までについて φ_r が定義されたと仮定して φ_n を構成しましょう．そのために，対角写像

$$d_n : \Delta^n \longrightarrow \Delta^n \times \Delta^n, \quad d_n(x) = (x, x)$$

を考えます． $d_n \in S_n(\Delta^n \times \Delta^n)$ と考えられます．このとき， $\varphi_{n-1}\partial d_n \in (S(\Delta^n) \otimes S(\Delta^n))_{n-1}$ を考えると， φ_{n-1} が $(*)_{n-1}$ を満たすことから

$$\partial(\varphi_{n-1}\partial d_n) = \varphi_{n-2}\partial^2 d_n = 0, \quad n > 1,$$

$$\epsilon(\varphi_0\partial d_1) = 0, \quad n = 1$$

がわかります． $\epsilon : (S(\Delta^n) \otimes S(\Delta^n))_0 \rightarrow \mathbb{Z}$ は添加写像です．つまり $\varphi_{n-1}\partial d_n$ は被約ホモロジー群 $\tilde{H}_{n-1}(S(\Delta^n) \otimes S(\Delta^n))$ の元です．

ところが Δ^n が可縮であることから， $S(\Delta^n) \otimes S(\Delta^n)$ の被約ホモロジー群は全ての次数で 0 になることがわかります．従って $\varphi_{n-1}\partial d_n$ はホモロジーの元として 0 ですから

$$\varphi_{n-1}\partial d_n = \partial y$$

と表されるはずですが，この y を $\varphi_n d_n$ と書きます．

d_n に対しては φ_n が定義されました．これを用いて一般の $\sigma = (\sigma_X, \sigma_Y) \in S_n(X \times Y)$ に対して φ_n の値を定めましょう． σ は，合成写像

$$\Delta^n \xrightarrow{d_n} \Delta^n \times \Delta^n \xrightarrow{\sigma_X \times \sigma_Y} X \times Y$$

と考えられます．つまり $\sigma = (\sigma_X \times \sigma_Y) \circ d_n = (\sigma_X \times \sigma_Y)_* d_n$ です．そこで

$$\varphi_n(\sigma_X, \sigma_Y) := ((\sigma_X)_* \otimes (\sigma_Y)_*)(\varphi_n d_n)$$

で定義します．これが $(*)_n$ を満たすことを確かめます．まず

$$\begin{aligned} \partial \varphi_n(\sigma_X, \sigma_Y) &= \partial((\sigma_X)_* \otimes (\sigma_Y)_*)(\varphi_n d_n) \\ &= ((\sigma_X)_* \otimes (\sigma_Y)_*)(\partial \varphi_n d_n) \\ &= ((\sigma_X)_* \otimes (\sigma_Y)_*)(\varphi_{n-1} \partial d_n) \\ &= \varphi_{n-1}(\sigma_X \times \sigma_Y)_*(\partial d_n) \\ &= \varphi_{n-1} \partial(\sigma_X \times \sigma_Y)_*(d_n) \\ &= \varphi_{n-1} \partial(\sigma_X, \sigma_Y) \end{aligned}$$

2 番目と 5 番目の等号で， $(\sigma_X)_*$ などが鎖準同型であることを用いました．また 3 番目の等号で d_n に対する φ_n の定義を，4 番目で $(*)_{n-1}$ を使いました．次に

$$\begin{aligned} (f_* \otimes g_*)\varphi_n(\sigma_X, \sigma_Y) &= (f_* \otimes g_*)((\sigma_X)_* \otimes (\sigma_Y)_*)(\varphi_n d_n) \\ &= ((f \circ \sigma_X)_* \otimes (g \circ \sigma_Y)_*)(\varphi_n d_n) \end{aligned}$$

最後の式は，特異単体 $(f \times g)_*(\sigma_X, \sigma_Y) = (f\sigma_X, g\sigma_Y)$ に対する φ_n の定義式に他ならないので

$$(f_* \otimes g_*)\varphi_n(\sigma_X, \sigma_Y) = \varphi_n(f \times g)_*(\sigma_X, \sigma_Y)$$

となり， $(*)_n$ が成立することが確かめられました．

Step 2

鎖準同型 $\psi : S(X) \otimes S(Y) \rightarrow S(X \times Y)$ を構成します．

Step 1 を振り返ってみると， Δ^n が可縮であることから被約ホモロジー群が消えることがポイントでした．逆写像 ψ も同様のアイデアに基づいて構成します．ここでのポイントは

- $\Delta^p \times \Delta^q$ が可縮で，従って $\tilde{H}_*(\Delta^p \times \Delta^q) = 0$ であること，
- $id_{\Delta^p} \otimes id_{\Delta^q} \in S(\Delta^p) \otimes S(\Delta^q)$ を Step 1 の d_n の代わりに使うこと

の二つです．

$$\psi_0 : (S(X) \otimes S(Y))_0 \rightarrow S_0(X \times Y)_0, \quad \psi_0(\sigma_X \otimes \sigma_Y) = (\sigma_X, \sigma_Y)$$

から出発して，Step 1 と全く同様の議論で鎖準同型 $\psi : S(X) \otimes S(Y) \rightarrow S(X \times Y)$ を構成することができます．

Step 3

$\psi \circ \varphi : S(X \times Y) \rightarrow S(X \times Y)$ が id とチェインホモトピー同値であることを示します．まず， φ_0 と ψ_0 の定義から $(\psi \circ \varphi)_0 = id_{S_0(X \times Y)}$ であることに注意します．

より一般に，鎖準同型 $F : S(X \times Y) \rightarrow S(X \times Y)$ で $F_0 = id$ を満たすものがあるとき， F は id とチェインホモトピー同値であることを示します．つまり，鎖準同型 $G_n : S_n(X \times Y) \rightarrow S_{n+1}(X \times Y)$ で

$$\begin{aligned} F_n - id &= \partial G_n + G_{n-1} \partial, \quad n > 0 \\ F_0 - id &= \partial G_0 + G_{-1} \epsilon, \quad n = 0 \end{aligned} \tag{4}$$

を満たすものがある，ということです．このような G を帰納的に構成しましょう．

まず $G_{-1} = 0$, $G_0 = 0$ とすれば $n = 0$ に対しては (1) が満たされます． $n - 1$ まで構成されたとして G_n を構成しましょう． $d_n \in S_n(X \times Y)$ を Step 1 で考えた対角写像とします．このとき

$$(-G_{n-1} \partial + F_n - id)(d_n) \in S_n(X \times Y)$$

はホモロジーの元を定めます．実際

$$\begin{aligned} \partial((-G_{n-1} \partial + F_n - id)(d_n)) &= -(\partial G_{n-1}) \partial + \partial F_n - \partial)(d_n) \\ &= (G_{n-2} \partial - F_{n-1} + id) \partial(d_n) + \partial F_n(d_n) \\ &\quad - \partial(d_n) \\ &= (-F_{n-1} \partial + \partial F_n)(d_n) = 0. \end{aligned}$$

2 番目の等号は (1) を利用しており , また最後の等式は F_n が鎖準同型である
ことによります . これで

$$(-G_{n-1}\partial + F_n - id)(d_n) \in \tilde{H}_n(\Delta^n \times \Delta^n)$$

がわかりましたが , このホモロジー群は 0 です . よって

$$(-G_{n-1}\partial + F_n - id)(d_n) = G_n(d_n)$$

と書けることになります . これで d_n に対して G_n が構成されました . 一般に
 $\sigma = (\sigma_X, \sigma_Y) \in S_n(X \times Y)$ に対しては

$$G_n(\sigma) := (\sigma_X \times \sigma_Y)G_n(d_n)$$

とおけば , G_n は (1) を満たすことがわかります . これでチェインホモトピー
 G_n が得られ , $F \sim id$ であることがわかりました . 特に $\psi \circ \varphi \sim id$ です .

Step 4

$\varphi \circ \psi : S(X) \otimes S(Y) \rightarrow S(X) \otimes S(Y)$ が id とチェインホモトピー同値であるこ
とを示します . Step 2 が Step 1 と全く同様に示されたのと同じで , Step 3 と
同様の議論で示せます . ここでも Δ^n が可縮であることがポイントになります .
ここでも d_n の代わりに , Step 2 で述べた $id \otimes id$ を使います . $(\varphi \circ \psi)_0 = id$
から始めて , 帰納的にチェインホモトピーを構成してみてください .

以上によりチェインホモトピー同値 $S(X \times Y) \sim S(X) \otimes S(Y)$ が示されま
した .

注意 ここで構成したチェインホモトピーは一意ではありませんが , 具体的
に次のようなものを取ることができます :

$$\varphi_n(\sigma_X, \sigma_Y) := \sum_{0 \leq i \leq n} L_{n-i}\sigma_X \otimes F_i\sigma_Y.$$

ここで $F_i\sigma$ は , σ の最初の $i + 1$ 個の頂点で張られる i 単体 (first i face) ,
また $L_i\sigma$ は σ の最後の $i + 1$ 個の頂点で張られる i 単体 (last i face) を表
します (この写像が鎖準同型であることを確認してみてください) . これは
 $\varphi_0(\sigma_X, \sigma_Y)_0 = \sigma_X \otimes \sigma_Y$ を満たしているので , Step 2 で構成した (任意の)
 ψ をチェインホモトピー逆写像に持ちます . この φ を Alexander-Whitney 写
像と呼びます .

(2) (1) により

$$H_k(X \times Y) \cong H_k(S(X) \otimes S(Y))$$

ですから , より一般に次を示せば十分です :

定理 1 (Künneth)

$\{C_*, \partial\}, \{C'_*, \partial'\}$ を \mathbb{Z} 上の自由鎖複体とする．このとき次の短完全列が存在する：

$$\begin{aligned} 0 \longrightarrow \bigoplus_{p+q=n} H_p(C_*) \otimes H_q(C'_*) &\longrightarrow H_n(C_* \otimes C'_*) \\ &\longrightarrow \bigoplus_{p+q=n-1} \text{Tor}(H_p(C_*), H_q(C'_*)) \longrightarrow 0. \end{aligned}$$

証明 $Z_* = (Z_n, 0\text{-map})$, $B_* = (B_{n-1}, 0\text{-map})$ を (自明な) 鎖複体とします．ただし

$$Z_n \stackrel{\text{def}}{=} \ker(\partial : C_n \rightarrow C_{n-1}), \quad B_n \stackrel{\text{def}}{=} \text{im}(\partial : C_{n+1} \rightarrow C_n)$$

です．このとき、鎖複体の完全系列

$$0 \longrightarrow Z_* \xrightarrow{i} C_* \xrightarrow{\partial} B_* \longrightarrow 0 \quad (5)$$

が存在します． B_n は自由 \mathbb{Z} 加群 C_n の部分加群なので，やはり自由 \mathbb{Z} 加群です．このことと補題 1 から $\text{Tor}(B_n, C'_*) = 0$ です．よって (5) に C'_* をテンソルすると，短完全列

$$0 \longrightarrow Z_p \otimes C'_q \xrightarrow{i \otimes 1} C_p \otimes C'_q \xrightarrow{\partial \otimes 1} B_{p-1} \otimes C'_q \longrightarrow 0 \quad (6)$$

が得られます．(6) は鎖群の完全列を与えており，従って次のホモロジー完全列が得られます：

$$\begin{aligned} \cdots \longrightarrow H_{n+1}(B_* \otimes C'_*) &\xrightarrow{\partial^{(n+1)}_*} H_n(Z_* \otimes C'_*) \xrightarrow{(i \otimes 1)_*} H_n(C_* \otimes C'_*) \\ &\xrightarrow{(\partial \otimes 1)_*} H_n(B_* \otimes C'_*) \xrightarrow{\partial^{(n)}_*} \cdots \quad (7) \end{aligned}$$

以下， $H_*(B_* \otimes C'_*)$ と $H_*(Z_* \otimes C'_*)$ について考えます．まず

$$\partial|_{Z_p \otimes C'_*} = (-1)^p \otimes \partial'$$

です．なぜなら， $z \in Z_p$ に対して $\partial z = 0$ なので

$$\partial(z \otimes c') = (\partial z) \otimes c' + (-1)^p \otimes (\partial' c') = (-1)^p \otimes (\partial' c')$$

だからです．よって

$$\begin{aligned} B_n(Z_* \otimes C'_*) &= \bigoplus_{p+q=n} Z_p \otimes B'_q \\ Z_n(Z_* \otimes C'_*) &= \bigoplus_{p+q=n} Z_p \otimes Z'_q \end{aligned} \quad (8)$$

となります．一方，短完全列

$$0 \longrightarrow B'_q \longrightarrow Z'_q \longrightarrow H_q(C'_*) \longrightarrow 0$$

より ((6) を得たのと同じ理由で)

$$0 \longrightarrow Z_p \otimes B'_q \longrightarrow Z_p \otimes Z'_q \longrightarrow Z_p \otimes H_q(C'_*) \longrightarrow 0$$

は完全です．この短完全列及び (8) より

$$H_n(Z_* \otimes C'_*) = \bigoplus_{p+q=n} Z_p \otimes H_q(C'_*) \quad (9)$$

を得ます．以上の議論と全く同様にすると

$$H_n(B_* \otimes C'_*) = \bigoplus_{p+q=n} B_p \otimes H_q(C'_*) \quad (10)$$

が示されます．

(7) の $\partial^{(n)}_* : H_{n+1}(B_* \otimes C'_*) \rightarrow H_n(Z_* \otimes C'_*)$ は, (9), (10) および連結準同型の定義から

$$\partial^{(n)}_* = j \otimes 1 : B_p \otimes H_q(C'_*) \longrightarrow Z_p \otimes H_q(C'_*)$$

です．ここで $j : B_p \hookrightarrow Z_p$ は包含写像です．よって

$$\text{coker } \partial^{(n)}_* = \bigoplus_{p+q=n} H_p(C_*) \otimes H_q(C'_*). \quad (11)$$

さらに, $0 \rightarrow B_p \xrightarrow{j} Z_p \rightarrow H_p(C_*) \rightarrow 0$ が $H_p(C_*)$ の自由分解であることから, Tor の定義を思い出すと

$$\ker \partial^{(n)}_* = \ker(j \otimes 1) = \bigoplus_{p+q=n} \text{Tor}(H_p(C_*), H_q(C'_*)). \quad (12)$$

(7), (11), (12) より結論を得ます． ■

この定理で, 特に C' として

$$C'_0 = G, \quad C'_n = 0 \quad (n > 0), \quad \partial' = 0$$

とおくと, 普遍係数定理を得ます．

もし, 先に普遍係数定理を仮定すれば, 群 G として $H_q(Y)$ を取ることに
よって証明することもできます．どちらを先に仮定するかは流儀によると思
います．